

# 「夕焼け」

原詩＝吉野弘 歌詞＝高田渡 曲＝高田渡

いつものこと、電車は満員  
そしていつものこと、若者が坐り年寄りが立っていた

うつむいていた娘、年寄りに席をゆずる  
礼もいわずに 年寄りは 次の駅で降りた

娘は坐ったが、また別の年寄りが娘の前に

娘はうつむいたが、また年寄りに席をゆずる  
年寄りは礼をいって次の駅で降りた

娘は坐った、二度あることは三度という通り  
別の年寄りが娘の前に

かわいそうに娘、うつむいて  
うつむいたまま、席をゆずらず

次の駅も、次の駅も  
口唇をかみしめ、つらい気持ちで

娘はどこまで、どこまで行くのだろう  
口唇をかみしめ、つらい気持ちで

やさしい心に責められながら  
美しい夕焼けもみないで

口唇をかみしめ、つらい気持ちで  
美しい夕焼けもみないで